

授業改善書

科目名	スポーツ文化論
担当者	齋藤 うい

授業の概要

本授業は、最広義に理解されるスポーツ（気晴らし、遊びを含む）について、スポーツと文化の関係性から、スポーツが社会的に構成される文化であることへの理解を深め、今後のスポーツのあり方や可能性、課題などを自発的に見出すことを目標としています。特に現代スポーツの諸問題に焦点を当て、学生が現代スポーツの成立から社会におけるスポーツのあり方についての視野を広げられるような授業づくりを心がけています。

授業の問題点

日常生活で「する・みる」の観点からスポーツと関わりをもっているなか、本授業ではスポーツを通して「学ぶ」という観点を重視し、社会とスポーツ、文化との関係性からスポーツの理解度を高めることを心がけました。しかし、スポーツの歴史は古代時代にまで遡るほど深く、また社会とスポーツ、制度とスポーツ、政治とスポーツ、教育とスポーツなど、スポーツを扱うテーマは広範囲であるため、授業内で例示する事例や事象が広義になってしまう点が問題点です。

学生の授業満足度

授業アンケートによると、学生の授業満足度は、私が学生に感じている認識や理解レベルとそこまで差異がないように感じます。「質問や発言をしましたか」の項目は、他項目に比べて比較的低い値でした。それは、授業中の学生への質問の機会を設けられていないという現状があげられますので、次年度における授業内容の見直しとともに、学生が質問する機会も増やしていけるよう授業を組み立てていきたいと思っております。

授業改善の課題と方策

前述したように、本授業は最広義に理解されるスポーツがテーマであるため、授業内容も広義になってしまうため、学生の理解度をどのように高めていくのかが検討課題です。現代社会におけるスポーツの環境とスポーツの歴史を伝えるため、授業内容の幅を広げると文化との関連が薄くなってしまいます。そのため、授業を通して共通する「スポーツと文化」というキーワードは常に基軸として、次年度の授業内容も組み立てていきたいと思っております。

その他

本授業では、授業の最後に授業テーマに関連した簡単な問いを出し、その回答をリアクションペーパーに書かせることを行いました。座学でのスポーツは、スポーツの事例・事象から「何が読み解けるのか」という観点が非常に重要であり、授業から得られた知識をどのように自分自身の考え（問い）として導きだすかが問われると考えています。そのため、講義内容をふまえてリアクションペーパーに取り組ませることは、自分自身の考え（問い）を再考する良い機会だと考えました。実際に、リアクションペーパーによって学生の授業理解度を計ることができ、また一生懸命、自分自身の言葉で表現しようとしている学生も多く、貴大学の学生には問いを導き出すための力が十分に備わっていると感じています。次年度も、引き続き学生の意欲を引き出せるよう邁進していきたいと思っております。